

屋上の百合霊さんオンラインイベント

めざせユリトピア3開催記念 ありがとうペーパー2学期



発売前店頭キャンペーン各店舗様衣装（抜粋）

「めざせ！ユリトピア！3」開催おめでとうございます！

皆様方にとってはおそらく「誰？」という存在である私・海原望ですが、端的に自己紹介いたしますと、要はライアーソフトの木端ライターです。

実は別名義ですが、百合霊さんのシナリオテキストも少し書かせていただいております、このたびで挨拶の場の末席に失礼いたしました。

私自身にとっても楽しくて切なくて思い入れのある大好きなゲームですし、こんなにも長い間で愛顧くださったことに心より感謝しております。

本日参加される皆様が、楽しい1日を過ごせますように。
ユリトピア！



（海原望）



祝めざせユリトピア3開催

CG
しら

百合霊さんを愛してくれてる世界中の方々にサチあれ！

めざせ！ユリトピア3
開催おめでとうございます！



長く愛して下さって
ありがとうございます！
CG: クラニール井上

深い霧の中、床机に腰を下ろし、左手前方妻女山方面にじっと目を凝らす信玄（陽香）は焦れていた。

「まだかよ……。愛来からの合図は……」

長期滞陣を嫌った信玄に対し、山本勘助からの進言で兵の半数以上を割き敵陣を背後から襲い、これを挟撃するいわゆる「啄木鳥の戦法」を実行した。

別働部隊は高坂弾正（愛来）、馬場美濃守らが率いて深夜に進攻している。じっと待つのはオレには向かないぜ。もっと正面からダーっと行っでドンっとなつて、パンって戦いたかったのによ！」

「まあ、愛来の言うことだから従うけどよ」

日の出とともに立ち込めていた霧がゆつくりと薄れていく。

その時、前方部隊からの伝令が息も切れ切れに本陣に駆け込んできた。

「御館様、御方進め。我が軍の正面に上杉軍、一万八千が陣を敷いております！」

「これは愛来からオレへのサプライズかっ！ ロックだぜー！ 見てろよ愛来、おれのラブロックを見せてやるぜ！」

その頃、妻女山では――

「策を見破られたか……、さすがは謙信といったところか……」

職や篝火は残ったままだが、上杉軍は完全に陣払いを済ませていた。数で劣る上杉軍が地の利を捨てて陣を払うとなると、越後への退陣かあるいは……。

愛来が思案を巡らせたのも数瞬、山下から関の声が聞こえてきた。

「まずいな。美濃守殿、急ぎ山を下りよう」

一方、上杉陣では先鋒柿崎和泉守（羽美）の部隊が、鶴翼に敷いた武田陣への突撃を開始しようとしていた。

「先陣はわたしがつとめますからね」

「お、おう。羽美、気をつけろよ。相手の裏かいたとはいえ、武田軍は強いぞ」

次鋒として控える謙信（沙紗）が、先駆けに向かう羽美に心配そうに声を掛ける。傍には小荷駄隊を指揮する直江兼統（音七）が控えている。

「羽美、頑張つてね。あたしが寝て待つてるよ」

「本来なら、わたしは謙信公となるべきかも知れないけど、今回は沙紗に譲るわ。やっぱり、御館様は黒髪ロングじゃないとね」

「羽美……、それってラ○スの影響受けすぎじゃない？」

「そんな設定どうでもいいよ。あんな朝早くにたたき起こされて……わたしや、ねむいよ。っていうか、寝る。おやすみ。あとは羽美と沙紗に任せよう」

「音七、寝るな。あたしたちも羽美に続くよ！」

先鋒に続き、二陣、三陣と次々に武田陣へと車懸りに突撃を開始していった。

「よし、信玄の本陣はすぐそこだわ。いくよ、沙紗、音七！」

「そ、そうだな。羽美」

「ZZZ……」

上杉軍の先鋒、次鋒はすでに武田本陣までせまっていた。本陣を救うべく武田の各武将が必死の抵抗を試みるが、数に劣る武田軍の不利は火を見るより明らかだった。

武田の別働隊が戻る前に決着つけるべく猛攻を仕掛ける上杉軍と、別働隊が戻るまで踏み止まるべく必死の抵抗を続ける武田軍。両軍、夥しい死傷者を出しながらの合戦を繰り返している。

「そこか、信玄！ 覚悟！」

ようやく信玄を捉えた、沙紗がおもむろに斬りかかる。

「へっ、甘いぜ、謙信！」

キンという甲高い金属音が響き、陽香はその一撃を受け止める。

「沙紗、わたしたちの目指すユリトピアと甲斐の坊主は相容れないのよ。ここで仕留めなさい」

「うるせー、オレと愛来が目指すユリトピアは間違っちゃいねーよ」

「そうだな。羽美。あたしたちの目指す義によるユリトピアは理解できないだろうな」

「……あたしや関係ないよ……ZZZ……」

「陽香、無事かっ！」

「ああ、おれのロックはこんなもんじゃまだまだ足りないぜー！」

開戦から二刻は経とうかという頃合、今にも武田軍は壊滅かと思われたその時、愛来たち別働隊がようやく戦場に駆けつけ上杉軍への襲撃を始める。

「あり、敵の別働隊が戻って来たみたいだね、こころが潮時かぬー」

「沙紗、退きましよう。これ以上の深追いは危険よ」

「やつと乗ってきたのにな。しかたないか。信玄、決着はいづれ。互いの信じるユリトピアにかけて」

「ふん、さつさと引つ込みやがれ」

上杉軍は武田本陣深くまで入り込んでしまっていたため、多大な犠牲を払いながら、犀川を越え善光寺方面に兵を退いていった。

「愛来、助かったぜ！」

「陽香、すまなかった。今回は私の失策でもある」

「まあ、助かったんだから、いいってことよ」

「少し聞こえたのだが、謙信の言う義のユリトピア……、そんなのは偽善だ。人は利で動く、義だけでは何も解決しない。義で腹が膨れるか？ 義で寒さを凌げるか？ 義で城が建つか？ 義などその程度のものだ」

「まあ、オレには難しいことはわかんねえけど、愛来の言うことを信じるぜ」

「よし、それでいい。かわいい奴だな。ふふふ……」

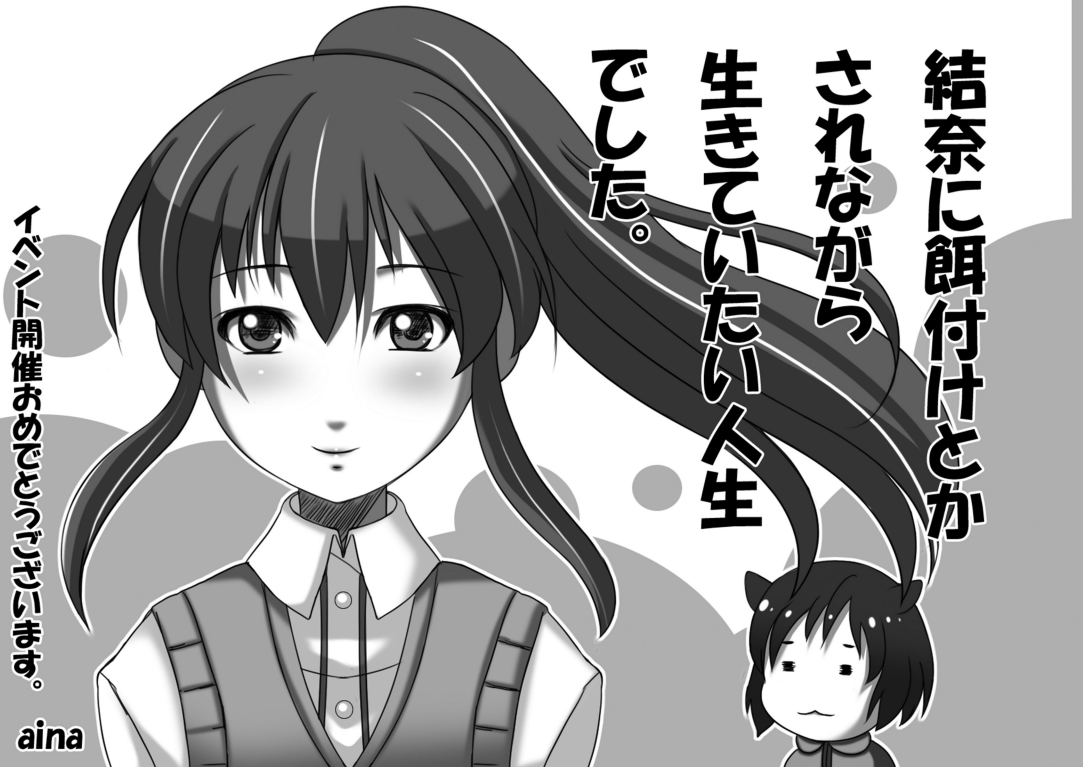
こうして、四度目となった川中島での合戦は幕を下ろした。

上杉軍、武田軍、双方合わせて七千余の死者を出す激戦であった。

戦国時代、それは各地の武将（乙女）たちが理想のユリトピアを目指し覇を争った時代。

そこには悲喜交々のドラマがあった。

終劇



イベント開催おめでとうございます。

aina

以前、性別逆転ネタで、『地下室の薔薇霊さん』というのを考えまして、「恵は時代的に…ヤンキーっぽいよな」とか思って描い…たら…
「だ、誰だお前!？」
という、とても残念な落書きが出来上がりました。

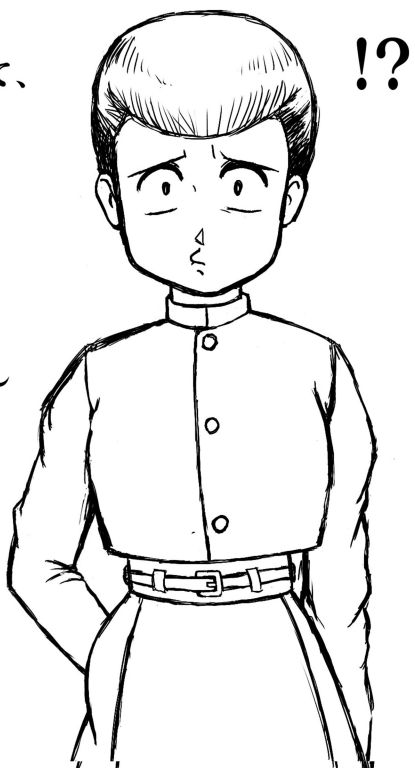
O(∩_) ~ (´_3_、)_

茶髪リーゼント、短ランにドカン…って言ってはたしてどれだけ通じるのやら。

ちなみに、サチさんはマント羽織って下駄履きです。

っていうか百合イベントのペーパーとしてはだめなんじゃないかと今頃になって反省しきり。

ムービー/システム系デザイン：犬太郎



!?

■禾刀郷
スク립ター兼ライターの禾刀郷でございます。前回のペーパーでは何やら書きすぎたらしく、しまさら編集長に「そんなガチに書かなくて良いんですよ」と言われてへこんだのも良い思い出です。それはさておき、Steamで販売中の英語版百合霊さん、我々が造った作品がベースなのに英語が乗ると別の商品に見えて新鮮ですね。ご興味あるかたは比べてみて下さい。